

熊本と北九州を結ぶ開発拠点

★地域開発(県計画)の指標——城北区

城北区(荒尾・玉名・山鹿・菊池の四市と、玉名・山鹿・菊池の三郡)は、阿蘇西麓の台地にあたり、菊池川

流域の肥沃の農業地帯を中心とした地域で、県計画でいう新産地域との

接続関係は極めて密であり、農業の発展を基盤とした、都市化、工業

化が大きく期待されている。

城北区のあらましと特色

城北区は、県北部に位置し、北は福岡、大分両県と境し、西は有明海を隔てて長崎県に相對し、東は阿蘇地区、南は熊本中央地区に続く。

地形的には筑肥山地、菊池盆地、玉名平野、小岱山および周辺台地、熊本台地および周辺台地などからなっている。

筑肥山地は、本県と福岡、大分両県の間に横たわって、自然の県境をなしている。中世には、北九州では英彦山が、肥後では阿蘇山が修験道の霊地とされ、そ

れに続く筑肥山地は、行者、山伏達の参入りの場所となるなど、筑後または豊後とを結ぶ重要な交通路をなしていた。こ

こは、山地斜面農業と林業の比重が高い。菊池盆地は、菊池市郡、山鹿市、鹿本郡にまたがり、盆地床を菊池川本流が西

流する。菊池川は、阿蘇の外輪山麓に源を発し、菊池水源の幽しい境をつくって

いる。本支流とも盆地の灌漑に大きな貢献をしているが、氾濫による災害も少なくない。菊池盆地は、平安時代から室町時代に

かけて、菊池氏が拠って活躍したところである。南朝の征西將軍を擁して、全九

村へのサービスを中心とした都市機能を果すとともに、歴史の古い玉名温泉(旧名立願寺温泉)や小岱山周辺の古代遺跡、蛇ヶ谷自然公園などを中心に観光都市としての発展が期待される。

有明海沿岸は、日本でも有数の遠浅の海で、干満の差が大きく、横島村沖から荒尾沖にかけて広い干潟がひろがり、この干潟を利用して、のりと貝類の養殖が盛んである。

小岱山および周辺台地は、県北の大牟田市に接する小岱山と、その北斜面、南斜面の台地ならびに金峯山地北方の伊倉台地などである。小岱山は、玉名温泉、赤田公園などを含めて県立公園に指定されており、古代遺跡が多く、また伊倉台地を含めて西南戦争の激戦地として、その名残りをとどめている。

小岱山の西方には荒尾市がある。明治三十四年に三井鉱山万田鉱が開鉱し、三池炭田の中心となって栄え、これに伴い商工業も発展した。しかし、昭和二十六年に万田鉱は閉鎖され、エネルギー革命による産炭地の不振は、ここも例外ではないが、ビルドアップとしての三池鉱の再建、発展に果す荒尾地域の役割は大きい。現在、大島地先に三井による工場用地造成が行なわれているが、石炭関連工場等の進出が期待される。

このほか、小岱山麓台地にナンを中心とするミカン・ブドウ・モモなど果樹地域がひろがり、レクリエーション地域として

は赤田公園、海水浴場などがあり、最近、荒尾市緑ヶ丘の丘陵地約二五〇鈔に果樹園中心の夢の公園、三井グリーンランドが開園した。

長洲町は、その名のとおり、浦川、菜切川と沿岸流の作用でできた砂洲上の町で、西日本最大の金魚養殖地として有名である。

中部九州と長崎とを結ぶ九州横断ルートとして参動交代の通路であった長洲—多比良間(一四鈔)に熊本、長崎両県で組織する有明海自動車航送船組合によるフェリーポートが運航している。

昭和三十六年、有明製鉄が有明海底の砂鉄を原料とする製鉄工場の立地を決定し、長洲地区と住吉地区の立地条件調査の結果、長洲に誘致することとなり長洲港中地区の用地造成が行なわれたが、原料砂鉄の採取技術、コストその他の事情のため立地中止のやむなきに至った。県民の期待をかけた有明製鉄の立地中止は、まことに残念なことであるが、有明海臨海部全域からみて長洲地区は地耐力その他すぐれた立地条件を有しており、荒尾地区とともに長期的視野にたつて新しい企業の誘導をはかる必要がある。

熊本台地および周辺台地は、熊本市の東部、北部一帯で、白川が造成した台地である。熊本台地の北部に花房、合志台地ならびに大津町、菊陽村等の阿蘇西麓台地があり、県下有数の畑地帯をなしている。しかしながら、これらの台地は、

州を征圧した華々しい活躍の原動力は、盆地の豊かな生産力にあったとみられる。現在も玉名平野とともに城北の穀倉地帯である。

盆地の東端に菊池市限府、西端に山鹿市山鹿の温泉がある。菊池市限府は、菊池氏の城下町として栄え、近くは昭和二十九年に温泉が掘りあてられ、新しい温泉観光都市としての発展をみている。山鹿市山鹿は、盆地周辺の物資集散地として、菊池川の船着場として栄え、山鹿大宮神社の祭礼、灯籠祭りには有名である。また、県下有数の古墳地帯であり、古くからの泉都として有名で県外客が多い。さらには両温泉都市の間に、かつ

て、山鹿新町とよばれた九州一のうちわの町、鹿本町米民がある。

玉名平野は、菊池川が下流部につくった菊池川デルタを中心とする平野部で、熊本平野、八代平野とともに清正公時代からひらかれた干拓水田地帯であり、菊池川中流の菊池盆地とともに、城北の二大米作中心地である。

なお、干拓については、現在、横島村地先に約五〇鈔の農地を造成する国営横島干拓が工事中である。

玉名平野の中心都市は玉名市で、中心街の高瀬は、菊池川の河口港として、対中国貿易の拠点ともなっていた歴史がある。玉名市は田園都市として、周辺農漁

おおむね不良土壌で土地生産性が低いが、酪農経営等が伸びている。

本地区をざっと眺めてみて、このような特性を有していると考えられるが、豊かな県民生活の実現をめざす県計画の地域区分によれば、この地区は新産都市の指定区域である「新産地域」、新産地域の周辺に位置し、その直接の波及効果を受けて、これと密接に関連しながら発展する「振興地域(北部)」に含まれる。このような県計画における地域区分の持つ意味は、県内地域間の均衡ある発

展を願い、総合的見地から地域区分を行なって各地域の特性と立地条件に応じた開発方向を明らかにしようとするものである。また、本地区は、新産都市の指定のほかに低開墾地域工業開発地区(菊池地区)の指定を受けている。新産都市は大規模工業開発地区、低開墾地域工業開発地区は中規模工業開発地区といわれているが、開発のねらいは、「新産」は産業基盤施設、都市施設、生活環境施設など基礎条件の整備による工業開発が

小岱山麓のナシの栽培……

